



昭和電工株式会社

CSRサイトレポート2022



龍野事業所

# 目次

● 事業所長ご挨拶	．．．	P3
● 龍野事業所の製品	．．．	P4-5
● TTI 活動（龍野三革新活動）	．．．	P6
● 環境関連の取り組み	．．．	P7-10
● 保安防災・安全衛生活動	．．．	P11-13
● 地域社会との繋がり	．．．	P14-15



## ◆SDGs の取り組みについて

SDGs（持続可能な開発目標）は、国連で採択された 2030 年までに全世界で取り組むべき 17 項目の目標です。私たちが直面している様々な問題の解決を目指し、将来の世代により良い環境や資源を残し、持続的に今の生活をより良くしていくために定められました。

昭和電工グループは社会的責任を果たし、また広く社会に貢献する企業となるため、この SDGs の達成に向けた各種の取り組みを進めております。

本レポートでは、各項目が SDGs のどの目標に関係するかを、各項目の見出しに以下のアイコンでお示ししております。



# 事業所長ご挨拶

2022年版CSRサイトレポートを発行するにあたりご挨拶申し上げます。  
平素は昭和電工(株)龍野事業所の事業活動に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

龍野事業所は1971年より関西の3工場が龍野に集約され操業を開始しました。これまで蓄積してきた知見を活かし、成長分野である自動車・環境・電子材料向けなど合成樹脂製品の関西における生産拠点として、有用な製品の提供を通じて社会に貢献すべく活動しております。

当事業所は新幹線と山陽本線の沿線にあり、また周囲には豊かな自然と、瀬戸内海につながる揖保川が流れていることから、日頃より化学物質を安全に取り扱うことを徹底しています。2004年には環境負荷を積極的に低減させるシステムとして「ISO14001」を取得し、省エネルギー・廃棄物削減・排水管理・環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。また、安全と健康の確保が企業活動の基盤をなすものと考え、2014年には労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS18001」を取得、2020年より「ISO45001」に移行し、継続的なリスク低減活動を展開中です。

当社は2023年1月に昭和電工マテリアルズ(株)(旧日立化成(株))との統合を予定し、世界トップクラスの機能性化学メーカーとなることを目指しています。当事業所としても、2019年にTPM活動を発展させた“龍野三革新活動”により、その基盤である「製造革新」「製品革新」「供給革新」の三革新を推進することで事業所の強みを活かしながら、個性派事業所を実現すると共に世界トップクラスの機能性化学品事業所を意識し事業変革に努めて参ります。また統合新会社は、「化学の力で社会を変える」をパーパスとしており、お客様の期待に応え、安心して喜んで製品をお使いいただけるよう、創意工夫を重ねております。

今後とも社会的責任を全うし、地域との共生により継続的に地域貢献できる事業所になるため、日々活動を続けてまいり所存ですので、本レポートをお読み頂き、皆様からの率直なご意見、ご質問、ご指導を頂ければ幸いです。



昭和電工株式会社  
龍野事業所長

丸山 和浩



## 1) 主な製品の紹介

龍野事業所では、日本で最初に量産化技術の開発に成功した不飽和ポリエステル樹脂とビニルエステル樹脂、この樹脂をベースにしたコンパウンド（BMC、SMC）、接着用の合成樹脂エマルジョン、溶剤系樹脂（ビニロール®）等を生産しています。

また、同敷地内には関連会社のハイパック株式会社があり、チャック付きポリエチレン袋やチャックテープも生産しています。

当事業所の製品の多くは中間製品ですが、身近なところで見かける最終製品の部材として数多く使用されています。一例を下表に紹介します。

製 品	製造部署	用 途
不飽和ポリエステル樹脂 ・液状樹脂  ・コンパウンド BMC SMC	第一製造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化槽</li> <li>・人造大理石</li> <li>・レジンコンクリート</li> <li>・漁船</li> <li>・レジャーボート等</li> <li>・管更生</li> <li>・自動車 (ランプフレクター等)</li> <li>・ブレーカー・パネル</li> </ul>
ビニルエステル樹脂	第一製造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐食用FRP（タンク等）</li> <li>・ライニング・ヘルメット</li> <li>・レジストインキ（プリント基板）</li> </ul>
合成樹脂エマルジョン  溶剤系樹脂 （ビニロール®）	第二製造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般接着</li> <li>・住宅建材</li> <li>・紙加工</li> <li>・粘着</li> <li>・リチウムイオン電池</li> <li>・土木</li> <li>・遮熱塗料</li> </ul>
・チャック袋  ・チャックテープ	ハイパック (関連会社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品用途</li> <li>・医療用途 (嫌気培養用)</li> <li>・大型製品防湿・防水用途 (工場内保管・輸出梱包用)</li> </ul>

## 2) 地球環境に優しい製品づくり

龍野事業所は「地球環境に優しい製品づくり」を念頭に置きながら、日々仕事に取り組んでいます。

長年蓄積してきた広範囲な独自技術により、様々な分野における製品を開発・製造しています。



### ◆リチウムイオンバッテリー用接着剤

スマートフォンやタブレット端末、普及拡大が期待される電気自動車に使用されるリチウムイオン電池用の接着剤を開発しています。

従来、人体や環境への影響が懸念される有機溶剤を用いた接着剤が主流でしたが、当事業所では「人や環境に優しい製品を」という信念のもと、有機溶剤を使用しない水系接着剤を開発しました。電池の高寿命化や急速充電性能の向上などに寄与することも認められ、世界中のお客様からの評価も良好です。



スマートフォン、タブレット型端末



電気自動車

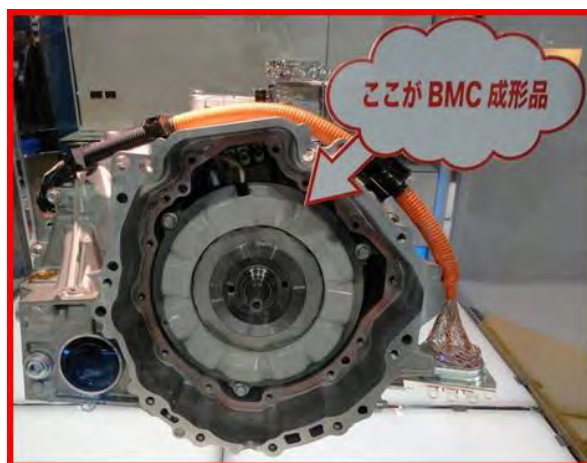


車載用バッテリー

### ◆ハイブリット/電気自動車モーター用封止材

自動車の低燃費化や排出ガス削減のニーズが世界的に高まり、ハイブリット/電気自動車の市場拡大が期待されています。

当事業所で製造を行っている熱硬化性成形材料（Bulk Molding Compound 以下、「BMC」）は、ハイブリッド自動車などの環境対応車に使用されているモーター部材を封止（固定）する材料としても使用されています。



ハイブリット自動車用モーター

今後も、社会や市場の変化を予測し、社会的価値の高い製品を開発・提供していきます。

# TTI 活動（龍野三革新活動）



## ◆龍野三革新活動とは

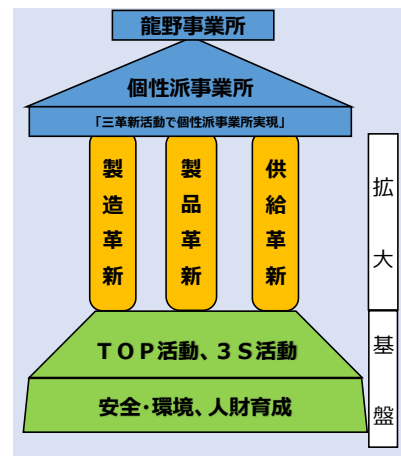
龍野事業所では 2019 年より独自活動として TTI 活動<sup>※1</sup>を開始しました。

『三革新活動で個性派事業所実現』をスローガンとし、右の概念図の通り拡大領域として 製造革新、製品革新、供給革新、基盤強化として TOP 活動<sup>※2</sup>、3S 活動、安全環境、人財育成の7つの部会で活動を行っています。

※1 TTI=Tatsuno Three Innovations の略 龍野三革新

※2 TOP=Tatsuno Oita Production の略 龍野大分プロダクション

（主に製造現場の安全・環境・作業効率等の改善活動を行っています）



## ◆TTI 推進委員会・相談会・現場巡回

各部会活動テーマの進捗確認や、TTI 活動の運営・方向性など決める場として、毎月1回 TTI 推進委員会を開催しています。また、改善活動で困っていることや課題に対するアイデアを出し合う場として、毎月1回の TTI 相談会、TTI 現場巡回を実施し本活動の活性化を図っています。

## ◆サークル活動発表会・改善表彰

龍野事業所では年2回、各サークルの活動テーマ（生産性向上、作業の簡素化、品質向上安全対策、省エネ活動、3S活動）について、サークル活動発表会を開催しています。又、優れた改善に対しては年末に表彰も行っております。



発表会表彰の様子

## ◆CX<sup>※3</sup>の最大化

TTI活動では一人ひとりの従業員が「自分のお客さまは誰なのか、誰に喜んでほしいのか？」を考え、活動を進めています。お客様とは、製品を買っていただくお客様だけではなく、事業所で一緒に働く従業員・協力企業の方々、事業所に来場される関係者、近隣地域の方々でもあります。

お客様が望んでいることは何か、喜ばれることは何か…お客様目線で考えることでより良い活動にしていきたいと考えています。

※3 CX=Customer Experience の略 顧客体験価値

今後もこの TTI 活動を通じて、改善活動の活性化や推進に努めていきます。



# 環境関連の取り組み



## 1) 省エネルギー活動

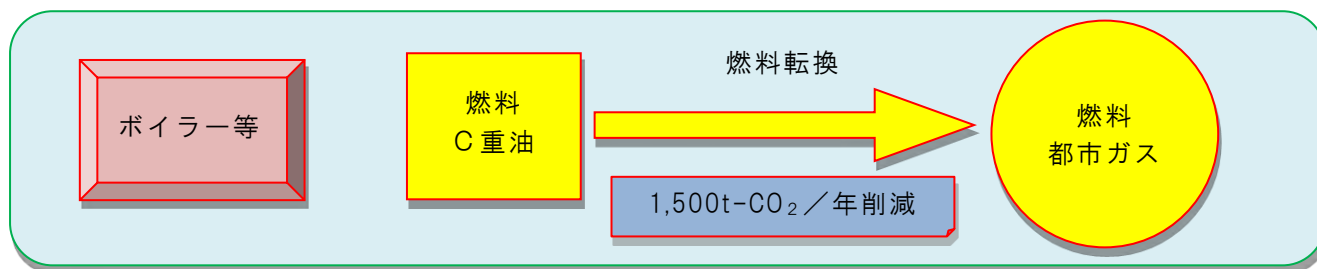
### ◆ボイラー等燃焼装置の燃料転換

2015年から、ボイラー等燃焼装置の燃料をC重油から都市ガスへ転換することで、排ガスのクリーン化とボイラー効率向上による省エネルギー化を図っています。

これにより温暖化ガス排出量 1,500t-CO<sub>2</sub>/年削減を達成しました。また、排ガス中のばいじんや酸性雨の原因となる硫酸化物の削減にも寄与しています。



ガス炊きボイラー



### ◆冷却水ポンプの更新

電力監視システムの活用により、電力使用量の解析を行い、電力使用量の削減対策を推進しています。

長年使用している冷却水ポンプの更新に際し、高効率モーターを選定して、電力削減を図っています。

プラントの重要なユーティリティ設備でもある冷却水ポンプは、稼働時間も長く、省エネルギー効果が見込める機器で、1台あたり年間約 15 千 kWh の省エネルギーになりました。



高効率モーターの冷却水ポンプ

### ◆太陽光発電による自家発電スタート

2021年9月より事業所内において太陽光発電をスタートしました。総発電能力 200kW (太陽光パネル総枚数 480枚、パワコン 50kW×4台) で、事業所全体の平日昼間の消費電力の1割を賄える能力となります。

SDGs 推進の一環として再生可能エネルギーを活用し、環境にやさしい機能性高分子製品作りを進めています。

太陽光パネルは新幹線車窓からも見えますので姫路-相生間を乗車の際は北側をご覧ください。



太陽光パネル

### ◆倉庫温度管理改善

夏場、低温管理している製品倉庫の電力削減に取り組んでいます。

空調機を省エネルギータイプに更新すると共に、フォークリフトの出入り時に冷気ができるだけ逃げない様に、自動シャッターを全開にせず開放高さをフォークリフトの高さに合わせて調整したり、適切な温度コントロールが行われるように温度センサーの改良や設置位置の見直しをしました。

これらの活動により、電力使用量を大幅に削減することができました。



製品倉庫

## ◆アルミ缶リサイクル活動

アルミ缶リサイクルは、ゴミの削減だけではなく、省エネルギーにもつながる活動です。

使用済アルミ缶を再利用して地金をつくると、ボーキサイト（アルミの原料）から地金をつくるよりも、97%のエネルギーを削減できます。

昭和電工グループ全体で、アルミ缶リサイクル活動を推進しています。龍野事業所でも積極的に本活動に参加し、ゴミの削減と共に省エネルギーにも貢献しています。

(2021年アルミ缶回収実績：龍野事業所回収総数 36,696 缶)



回収されたアルミ缶

## 2) 産業廃棄物削減

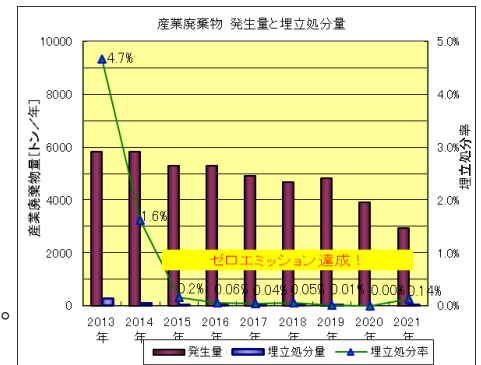
### ◆ゼロエミッション達成

産業廃棄物発生量に対する最終埋立処分量を1%以下にすること（ゼロエミッション）を目標とし、産業廃棄物の見直しを進めてきました。

2014年から新型脱水装置の導入により、産業廃棄物の汚泥の含水率を低く抑えたことで、リサイクル処理可能となりました。その結果、2015年よりゼロエミッションを継続しています。

2017年にはガラスくずのリサイクル処理が可能な廃棄物処理業者に委託先を変更し、更なる埋立処分量の削減に取り組んでいます。

2018年には法令で処理期限が設定されているPCBの処理も完了させております。



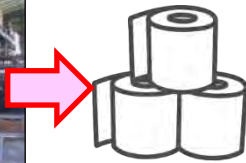
### ◆リサイクル推進活動

事業所内の焼却炉で焼却処理をしていたプラスチック容器やビニール袋、シートなどは、事業所全体で分別回収を行い、その一部をリサイクル業者に有価売却しています。2020年からはポリ容器もリサイクルできるようにしました。

またそれ以外にも、紙類、ダンボールのリサイクルの推進、潤滑油の再利用（リユース）等、更なる廃棄物の削減及びリサイクルの推進に努めています。



紙類のリサイクル



回収された書類等は、トイレトーパーにリサイクルされます。



潤滑油の再利用（リユース）



回収された潤滑油は、業者がゴミを焼却するための燃料として再利用（リユース）されます。

## 4) 環境管理

### ◆ISO14001：2015年版での認証

環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001の認証を2004年に取得しました。そして、2018年の1月より、最新規格であるISO14001:2015での認証を受け、継続して環境保全に関する改善活動を行っています。(2021年 更新審査適合)



ISO14001 認証書



## ◆監視システムによる環境管理

事業所周辺環境の保全対策として、異常を早期に検知し素早い対応がとれるように監視機器と常時監視モニターを設置しています。

### 【排水】

事業所の排水には、雨水等の一般排水と製造に使用した工場排水があります。工場排水は、事業所で凝集沈殿及び微生物分解により、有害物を処理してから排出しています。

2018年に水質関連の環境監視機器の一つである全窒素・全りん自動測定装置の更新を行いました。その際、測定結果に対する直射日光や外気温、風雨等の影響を避けるために、専用の小屋を設置し、常に正確なデータを取得できる測定環境を整えました。2021年には常時監視モニターを製造課の管理室に設置し、常にトレンドを監視できるように強化しました。

また、排水路には異常検知機を設置しており、通常と異なる数値が検出された場合には、直ちに水門が自動で閉まり、事業所外への有害物の排出を防止しています。また、万一汚染された水が流出しても適切に貯留できるように緊急退避槽を整備しております（通常時の排水量約3～4時間分の排水を貯留可能）。



監視機器専用の小屋



常時監視モニター



排水路の自動開閉式水門



緊急退避槽

### 【排ガス】

事業場の排ガスとしては主にボイラーで燃料を燃焼させた時に発生するガスがあります。最適な燃焼状態を保つように運転管理と定期的な排ガス測定を行い、環境負荷物質の監視に努めています。

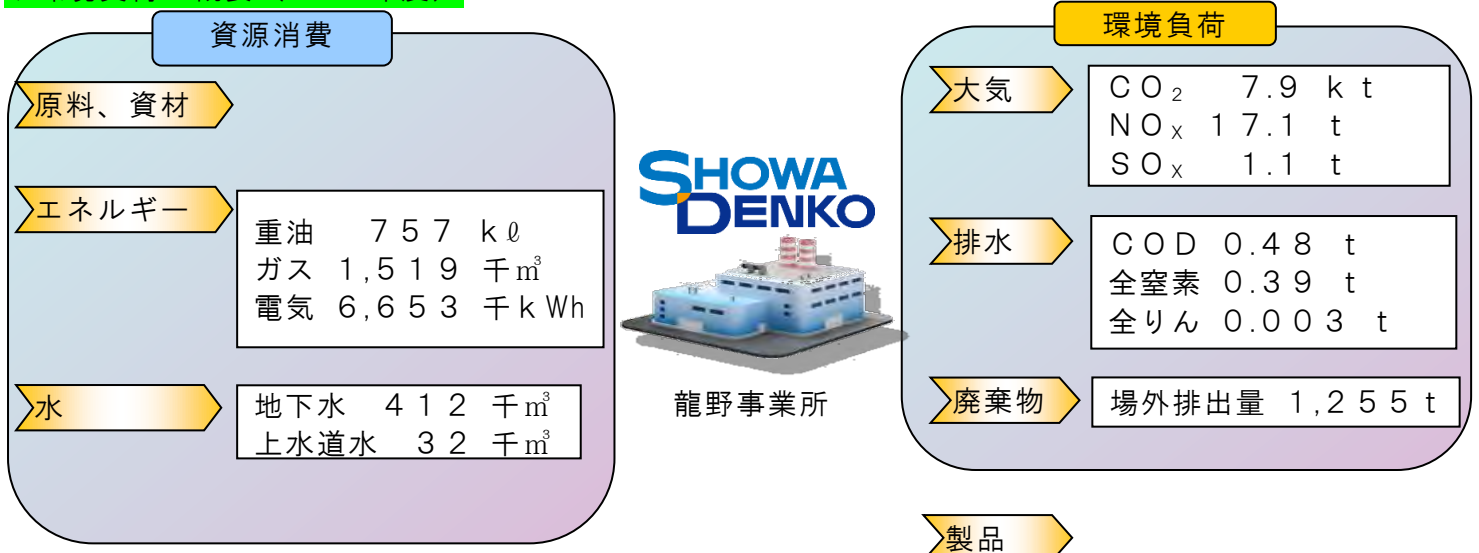
また、事業所の臭気には細心の注意を払っており、発生源の特定と対策を推進するため、敷地境界付近の6箇所に臭気センサーを設置して24時間体制で監視し、臭気異常を感知できるようにしています。



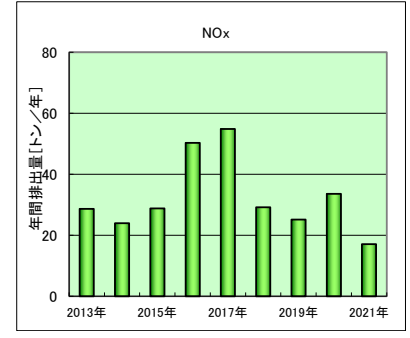
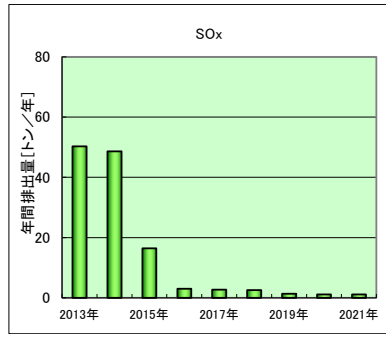
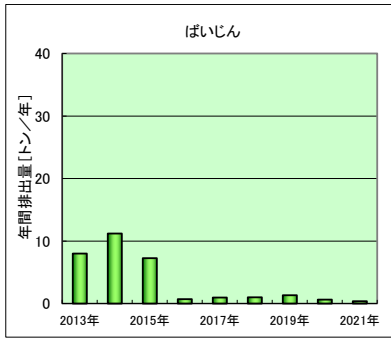
臭気センサー

引き続き、事業所の周辺環境に配慮した取り組みを積極的かつ継続的に進めていきます。

## ◆環境負荷の概要（2021年度）



## ◆大気関係（2021年1月～12月）

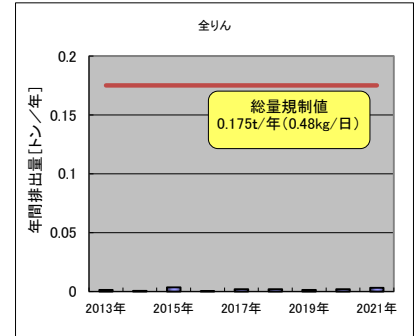
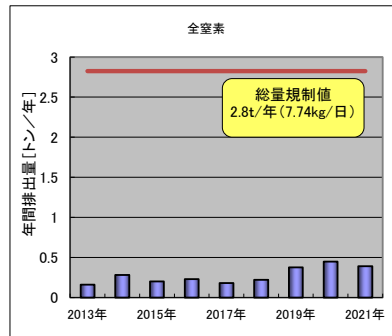
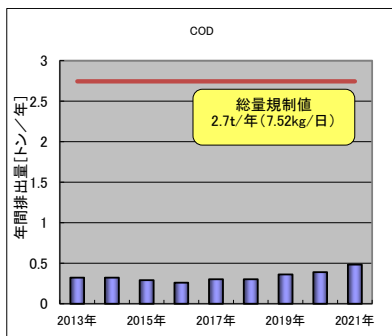


ばいじんは燃焼の際に発生・飛散する微細な物質です。SO<sub>x</sub>とは硫黄酸化物のことで、燃料中の硫黄分が発生源となります。NO<sub>x</sub>とは窒素酸化物のことで、光化学オキシダントの原因物質とも言われ、燃料の燃焼などにより発生します。いずれも呼吸器系への健康被害を起こす可能性がある物質で、排ガス中の濃度に対する規制があります。適切な燃焼状態の管理と定期的な濃度測定を行い、規制値を遵守しています。

2015年にボイラー等の燃料転換（C重油から都市ガスへ）を行い、ばいじんとSO<sub>x</sub>の総量は年々低減しています。NO<sub>x</sub>の排出量は、自家発電設備（コジェネボイラー設備）の運転状況の影響を受けており、世間の電力事情を勘案し運転調整を行っています。

今後も、設備の有効活用をしつつ、NO<sub>x</sub>の削減に努めていきます。

## ◆水質関係（2021年1月～12月）



CODとは「化学的酸素要求量」のことであり、水中の有機物を化学的に分解した際に消費される酸素の量で表され、数字が高いほど有機物が多く、汚濁が進んでいることを示します。

窒素、りんは、植物性プランクトンの栄養源であり、赤潮の原因物質とされています。

いずれの項目も排水中の濃度を24時間連続測定にて監視しており、総量規制値より大幅に低い値で推移しています。

## ◆地球温暖化防止対策（2021年4月～2022年3月）

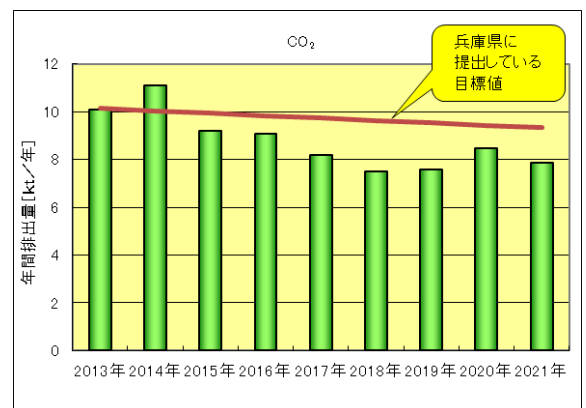
地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出抑制に取り組んでいます。

ボイラー設備などの燃料転換や生産効率の改善により、CO<sub>2</sub>を大幅に削減することができました。そして、2021年には太陽光発電の設置・稼働開始しました。

今後は、さらに省エネルギー効果の高いLED照明やエアコン

の採用、高効率設備の導入により地球温暖化防止対策を推進していきます。

\*CO<sub>2</sub>排出量は電力の排出係数を0.358(基準年:2013年)に固定



## 1) 保安防災訓練

龍野事業所では、万一の災害に備えて消防訓練、防災訓練を実施しています。

### ◆消防訓練

2021年10月、地震避難訓練と消防訓練を実施しました。(地震による火災発生を想定しました。)

従業員の安否確認、火災の状況、消火活動の状況、保有危険物、負傷者の有無などの情報を収集する訓練や、延焼防止を目的とした放水訓練を実施しました。

前回訓練における指摘事項の改善を確認できました。



現地対策本部

### ◆消火器訓練

消防訓練の実施に併せて、消火器訓練を実施しました。

消防設備士から指導を受けて、実際の火を消火器で消す訓練を行いました。

水が放出される訓練用の消火器は消防署で体験できますが、実際に火を消す訓練は機会がありませんでした。火点に近づくと、煙で火元が目視しにくいことや、火の勢い・熱さを感じられ、有意義な体験ができました。



消火器訓練

## 2) 救命講習

毎年、たつの消防署による救命講習を受講しています。

救命処置の重要性(救命の連鎖)の教育後、心肺蘇生やAEDの扱い方を、人形を使って学びました。

繰り返し訓練が効果的なことから、今後も継続していきます。



心肺蘇生講習

## 3) 危険体感教育

龍野事業所では、作業や設備の危険(怖さ)体感教育を行い、安全意識向上や安全活動の活性化に努めています。各製造課が教育テーマを決め、教育機材や資料を準備し、事業所内に展開しました。内容を幾つかご紹介します。

### ◆粉塵爆発

粉塵爆発が起こる原理を解説し、粉塵爆発を起こす実験機器で、どのように爆発するのかを体感し、理解を深めました。



粉塵爆発体感教育

### ◆高圧洗浄機の威力

高圧洗浄機(水を勢いよく噴出できる機器で、機器や容器の洗浄に使用)からの噴出水を肉片や木材、作業服に当てて、どれ程のダメージを受けるかを観察しました。

### ◆カッターの危険性

製品を切断する機器で、木の棒に刺したウィンナーを指に見立て切断することで、切断の衝撃や怖さを体感してもらいました。



高圧洗浄機による切傷リスク体感



カッター装置による切断体感教育

切断された「棒付きウィンナー」↑



#### 4) 適切な操作方法の教育

事業所内には、原料や製品を送液するための配管があり、その接合部はフランジと呼ばれる継手で接続されています。フランジが均等に締まっていないなどの不具合があると、内部の溶液が漏洩してしまいます。

フランジシミュレーターという体感装置により、フランジの正しい締め方について学びました。これまでできていると思っていた締め付け具合が、数字で表示されることで、不均一であることが判明し、受講者は配管接続の難しさや大切さを体感しました。



フランジシミュレーター教育

#### 5) ノンテクニカルスキル教育

ノンテクニカルスキルとは、技術（テクニカル）や知識的な側面ではなく、状況認識、コミュニケーション、意思決定、チームワーク、リーダーシップなど、ヒューマンファクターに因るエラーを防止し、安全を確保するために必要なスキルのことです。

近年の労働災害や事故の要因には、設備や製法などの技術要因より、ヒューマンエラーなども含めた人の特性に起因するものが増えてきていると言われています。

そこで、人の行動特性を理解し、自分自身はどのようなことを意識して作業に取り組むべきかについて、演習を行いながら学びました。



ノンテクニカルスキル演習

#### 6) 労働衛生、健康管理活動

##### ◆健康管理セミナー

従業員の健康維持活動の一環として、2021年11月にグンゼスポーツ(株)の講師による健康セミナーを開催しました。テーマは「腰痛・肩こり解消のセルフメンテナンス」で、18名が参加しました。

セルフメンテナンスを行う前と行った後では自分自身の体の動きが良くなることが実感できてよかった等の喜びの声がありました。

今後も従業員の健康維持に役立つセミナーを行っていきます。



セミナー受講風景

##### ◆粉体原料取扱いへの対策

粉体原料の取扱いにあたり、作業員へのばく露を防止するために、粉じんの捕集効率の高い防塵マスクの着用や集塵効率の高い集塵装置への更新を実施しました。



防塵マスク



集塵装置

##### ◆熱中症対策

近年の温暖化の影響により熱中症対策はますます重要となっています。

当事業所では、各製造課の作業エリアにおけるWBGT温湿度計の設置、個々人の体調確認、休憩時間の管理、水分塩分補給、塩タブレット配布、毎朝の注意喚起メール配信、注意喚起ののぼり旗の設置を実施することで、熱中症予防に努めています。



WBGT 温湿度計



注意喚起ののぼり旗

#### 7) 認証

##### ◆ISO45001 認証

当事業所では、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の認証を取得しています。毎年行われる外部審査を受審し、認証を維持しており、2020年にISO45001システムに移行しました。

引き続き、労働災害防止活動を推進していきます。



ISO45001 認証書

### ◆感染予防対策

2020年より世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症に対して、当事業所としても万全の対策を実施しております。

「新型コロナウイルス感染症をできるだけ予防する」、「もし感染者が出ても、そこからクラスターを発生させない」を対策の指針とし、Withコロナの情勢下における当事業所の供給責任を引き続き果たしてまいります。

事業所で実施中の具体的な対策は以下の通りです。

- ・ 場内ではマスク着用を必須とする。
- ・ 食堂は従業員ごとに利用時間を指定して、密が生じないようにすると共に、席にはパーティションを設ける。  
また食事中的の会話は禁止する。
- ・ 事業所を出入りする方全員の体温を確認し、37.5℃以上の方の入場はお断りする。
- ・ 人との接触を最小化するため、従業員の在宅勤務を奨励する。
- ・ 不要不急の出張や来客の受入は取りやめ、Web会議を積極的に活用する。
- ・ 会議室は換気能力・広さに応じて人数制限を行い、3密状態が生じない運用とする。またドアストッパーでドアを半開状態にするなど、換気を常に行うようにする。
- ・ 全ての部署で毎日、人の手がよく触れる箇所（ドアノブ・スイッチ等）を消毒液で消毒する。
- ・ 全ての部署の出入り口にアルコール消毒液を置き、小まめな手指の消毒を心がける。



食堂の様子



会議室は人数制限



出入り口にはアルコール除菌機を設置

・ 私生活においても、従業員に不要不急の外出を自粛するよう指導し、従業員一人一人が感染リスクを最小化するよう意識付ける。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年以降は多くのイベントが中止・延期を余儀なくされておりますが、制限のある中でも引き続き、地域社会とのコミュニケーションに努めてまいります。

## 1) 事業所内行事

### ◆高校生インターンシップ受け入れ

2021年11月・12月、兵庫県立姫路工業高校から3名、兵庫県立飾磨工業高校から2名、合計5名のインターンシップを受け入れました。

5日間の期間中、エマルジョンの重合の見学や、BMCのテストピース作成などの業務体験をしていただきました。

インターンシップ生からは「お客様がどういった状況で使う物質なのか考えて開発することや、他部署と連携しながら仕事を進めることの重要性を学べた。」等の感想があり、学校ではなかなか得られない多くの気づきが得られていたようでした。

今回の実習で得た経験が、今後の学生生活や就職活動で役に立つことを願っています。



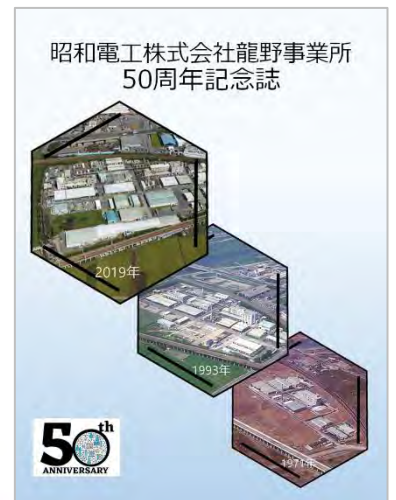
インターン生 記念写真

### ◆事業所 50周年記念品作成

龍野事業所は2021年10月に、操業50周年を迎えました。

それを記念し、50年の歴史を振り返る記念冊子・記念品を作成し、近隣自治体の皆様や、龍野事業所内で働く全ての方へお渡しいたしました。

当社がこの地で長く事業を続けることができているのは、地域社会の皆様や従業員、その他すべてのステークホルダーのご理解とご協力のおかげであることを改めて認識し、今後も地域社会との共存・発展に努めてまいります。



記念品・記念誌を作成

## 2) チャリティ・ボランティア活動

### ◆社会福祉協議会への車いす寄贈

毎年12月、アルミ缶リサイクル活動で集まった寄付金で車いすを購入し、たつの市社会福祉協議会へ寄贈しており、2021年には4回目の寄贈を行いました。

寄贈した車いすは、同協議会が実施している車いすの貸し出し事業に役立てられるとのことでした。

来年以降も継続的に社会福祉協議会への寄贈を行う予定です。アルミ缶リサイクル活動を推進し、地域社会へ貢献してまいります。



車いす 2台を寄贈



### 3) その他

#### ◆揖保小学校での出前授業実施

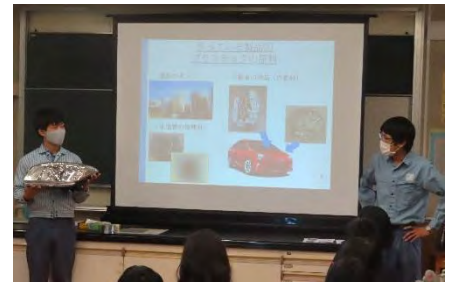
2021年12月にたつの市立揖保小学校にて、小学6年生を対象に理科の出前授業を実施しました。

この取り組みは小学生の理科への興味を深めると共に、地元根差す化学メーカーである当社のことをよりよく知っていただくため、2021年に開始しました。

当日は当社の開発スタッフが講師となり、「混ざる・混ぜる」をテーマにして、水と油という本来は混ざり合わないものが、乳化剤を加えることによって混ざっていく過程（乳化）を実験で確認しました。

また乳化を活用した製品である当社の粘着剤（合成樹脂エマルジョン）を用いて、シール作りの実習も行いました。

来年以降も出前授業は継続し、地域の理科教育へ貢献してまいります。



出前授業の様子

#### ◆たつの市長へのご挨拶

毎年、事業所長がたつの市役所を訪問し、山本市長へご挨拶をしております。

2021年はたつの市の雇用情勢について情報交換を行い、この地で50年以上にわたり操業している当社の雇用の維持・拡大について、期待の言葉をいただきました。また、当社も協力している企業版ふるさと納税による地域創生についても話題に上がりました。

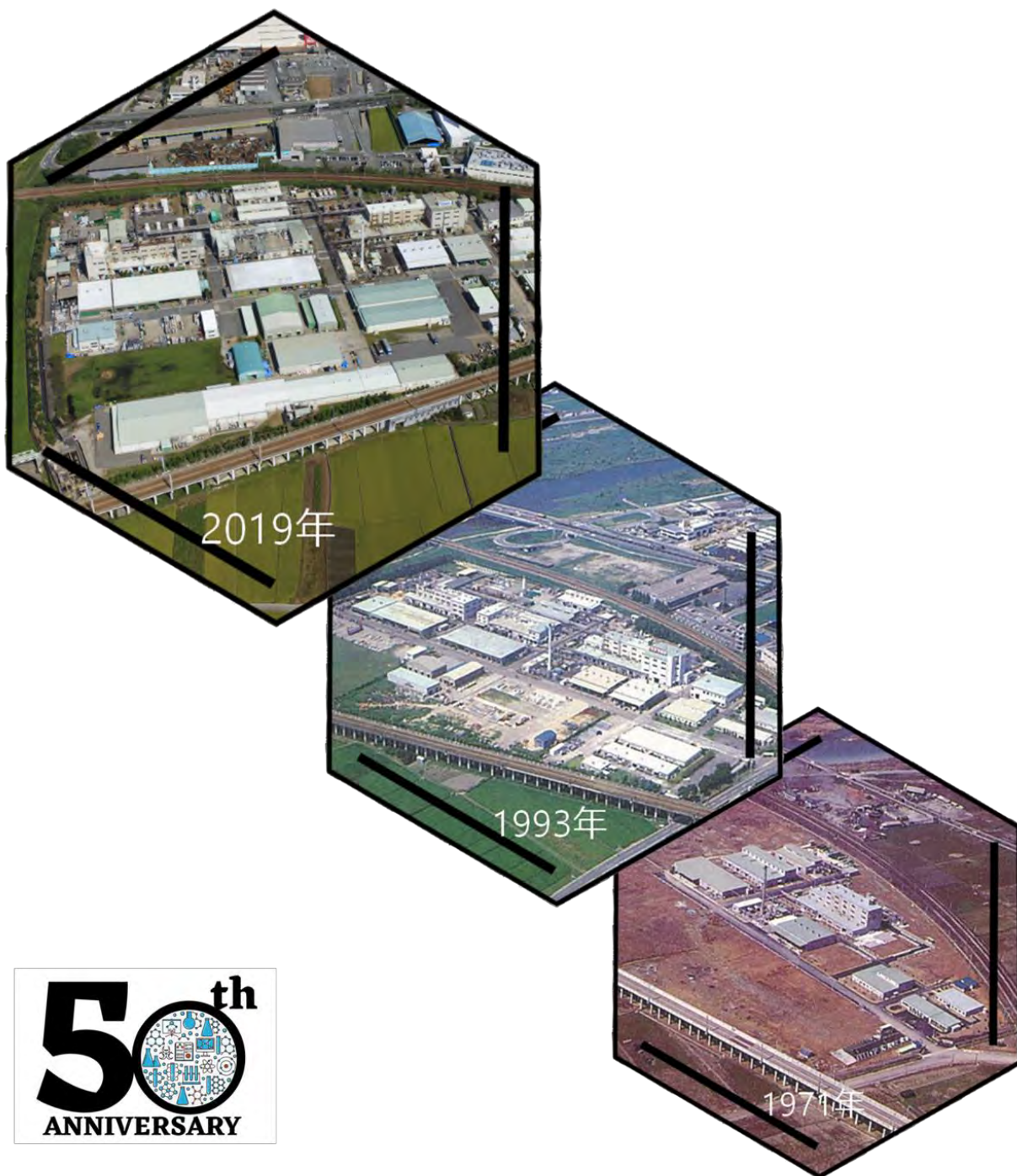
今後も地域の皆様に当社のことを知っていただきながら、共に発展を図ってまいります。

#### ◆事業所周辺清掃活動

毎年6月初めの田植え前に、事業所周辺の草刈りと水路の掃除を全従業員で実施しています。2021年の草刈り清掃作業当日は、晴天に恵まれ作業は順調でしたが、気温が高かったため、水分補給と十分な休憩に注意して作業を行いました。予定通り事業所周辺をきれいにすることができました。

今後もこのような清掃活動を継続していきます。

昭和電工（株）龍野事業所は、2021年に操業50周年を迎えました。



発行年月 2022年7月

《本レポートに関するお問い合わせ先・発行元》  
昭和電工株式会社 龍野事業所 総務グループ  
〒679-4155

兵庫県たつの市揖保町揖保中 251-1

T e l : 0791-67-1111

F a x : 0791-67-0655

[表紙・裏表紙写真 龍野事業所の航空写真]